

6,816人が参加しました 市内一斉クリーン作戦

4月10日、春の市内一斉クリーン作戦が行われ、6,816人の市民が参加しました。

開始式のあった白川公民館では、風間市長が「住みよい地域づくりのために、皆さん協力してがんばって下さい。」とあいさつ。その後、参加者は周辺の道路沿いなどに落ちている空き缶やビニール類などを拾い集め、地域の環境美化を図りました。

また、前日にはNECトーキン(株)白石事業所やNECインフロンティア東北(株)の社員とその家族の皆さんもクリーン作戦を行いました。



水音が響く白石を美しく! 白石市観光協会の清掃奉仕作業



4月9日の朝、白石市観光協会と白石商工会議所の共催で、沢端川周辺の清掃奉仕作業が行われました。

市で毎年実施している春と秋の川干しに合わせて行われている作業は、今回で3回目。4月にしては肌寒い中、100名を超える市民有志が参加し、沢端川底の空き缶やペットボトルなどの回収や除草など、周辺の美化活動を行いました。桜の見ごろの時期を迎える前に、沢端川をきれいに、参加者の皆さんは奉仕作業に汗を流していました。

安全な交通環境を目指して 春の交通安全運動

春の交通安全運動初日の4月6日、10日間の運動の出動式が、市役所前駐車場で行われました。

出動式には約80名の皆さんが参加。「子どもと高齢者の交通事故防止」を運動の基本として、市民の交通安全推進と意識の高揚のため、4月15日までの市民総ぐるみの運動がスタートしました。

参加した皆さんは、交通指導隊の斎藤隊長の号令で、市内の主要交差点での街頭指導や広報活動へと向かっていきました。



▲4月6日に開催された出動式

日ごろの練習の成果を発表 ホワイトキューブ新体操教室発表会

4月10日、ホワイトキューブで新体操教室の発表会が開催され、日ごろの練習の成果をお客様や家族の前で披露しました。

平成9年のホワイトキューブオープンと同時に始まった新体操教室は、今年で9年目。現在は4歳から中学3年生までの79名の子どもたちが、1日2時間から3時間の練習を、毎週2日から3日行っています。

国体などの関係で5年ぶりに開催された発表会では、我が子の素晴らしい演技に、感動の涙を流すお母さんの姿も見られました。



白石は美しい自然がいっぱい! 水芭蕉・どうだんの森開園

4月15日、南蔵王に春の訪れを告げる風物詩である福岡深谷地区の「水芭蕉・どうだんの森」が開園しました。



今年の水芭蕉は、積雪量が例年に比べ多かった影響で、昨年より一週間ほど遅い開花となりました。

すっきりと晴れ上がった空のもと、開園式には100名を超える見物客が訪れ、所々に残雪が残る園内を散策し、白い妖精のような水芭蕉に見入っていました。

甲冑姿で交通安全を呼びかけ

また、4月8日には斎川の国道4号で、白石警察署管内の白石市・蔵王町の交通安全協会合同の街頭キャンペーンを行いました。

この街頭キャンペーンは「身を守る昔甲冑今ベルト作戦」と題し、白石警察署員や交通指導隊員と一緒に、ダンボールなどで甲冑をつくる活動をしている「甲冑工房片倉塾」の塾生13人が武者姿で参加。ドライバーたちにシートベルトの着用やチャイルドシートの正しい装着など、交通安全を呼びかけました。



卒業生を祝福

手をつなぐ育成会「卒業を祝う会」

中央公民館で4月3日、障害を持つ子どもたちの親などをつくる白石市手をつなぐ育成会が、この春小中学校などを卒業した子どもたちの新たな門出を祝う、「卒業を祝う会」を開催しました。

開会では会長の蓬田明さんが、「卒業は新たな出発であり、今後とも親と子が手をたずさえながらがんばってください。」とあいさつ。風間市長をはじめ多数の来賓が出席し卒業生の前途を祝したのに続いて、それぞれの卒業生が、これからの目標や意気込みを力強く発表しました。



楽しくきれいな公園です! 第6回つくし公園まつり開催

今年で6回目となる、つくし公園まつりが4月3日開催されました。



このおまつりは、田町自治会、田町相生会、あしたば白石および碧水園の利用者などで構成する「つくし公園運営委員会」が毎年4月の第1日曜日に開催しています。

この日集まった子どもたちは、風間市長と一緒に花を公園の周りに植えた後、紙芝居やゲートボール、特設の駄菓子屋での買い物を楽しんでいました。

小中学生の活躍をたたえて 吉見教育基金顕彰



市庁舎で3月29日、スポーツや芸術活動で優れた成績を収めた小中学生を顕彰する、「吉見教育基金」の顕彰授与式が行われました。

この基金は、平成9年3月に閉園した和洋裁学校「吉見学園」からの寄付金を基に創設されたものです。

今年顕彰されたのは、体操や水泳で活躍されたスポーツ部門の個人6名・団体2団体と、絵画や書道、英作文などで活躍された芸術部門の個人12名の皆さんです。

親しまれる「市民の足」を目指して 4月から市民バスが運行開始

市では4月1日から、路線バスと患者輸送バスを統合した「白石市民バス(愛称:きゅっするくん)」の運行を開始しました。

5台7コース(福岡線・三本木線・大網線・白川線・越河線・白角線・大張線)で運行される市民バスは、運賃が1回の乗車につき一律100円で、70歳以上・中学生以下・障害者の方は無料。市街地以外では停留所以外でも乗り降りできるなど、親しまれる「市民の足」を目指します。



▲3月30日に開催された出発式

地域の特色を生かしたまちづくり 各公民館指定管理者基本協定締結



▲斎川公民館での調印式

3月31日、4月1日の2日間にわたり、公共施設の指定管理者制度に基づき、8地区の公民館において指定管理者基本協定書の調印式が行われました。

4月1日午前11時から行われた斎川地区での調印式では、風間市長と高橋昌教育長、斎川まちづくり協議会(斎川公民館運営組織)の佐藤伸式会長の3人が協定書に署名し、地域の特色を生かしたまちづくりの連携を誓い、固い握手をかわしました。



▲3月25日に開催された開園式

園芸と河川管理の調和 「河川ふれあい農園」が開園

市と大河原土木事務所で3月25日、自然に恵まれた河川敷で趣味の園芸を楽しみたいという地域の方々の要望と河川管理の調和を図るため、郡山西堀地区の白石川河川敷に約2,500㎡の「西堀地区河川ふれあい農園」を開園しました。今後、広報などで募集した22名の市民が「白石川西堀農園愛護会」の会員となり、清掃や除草、花の植栽などの環境美化活動とともに、1区画約20坪の区画で趣味の園芸を心おきなく楽しめます。